

知的資産経営報告書

2011年版



信楽
江戸中期創業



丸九製陶所

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。よって、「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。

三方良しの経営理念により、お客様の要望に応え続けます！！

目 次

1. 社長から皆様へ	・・・・・・・・・・	P 1
2. 経営理念	・・・・・・・・・・	P 2
3. 会社概要	・・・・・・・・・・	P 3
4. これまでの事業展開	・・・・・・・・・・	P 8
5. 当社の知的資産	・・・・・・・・・・	P 10
6. これからの事業展開	・・・・・・・・・・	P 11



1. 社長よりみなさんへ

株式会社丸九製陶所は、信楽焼の新しい商品や有効な用途をさがして試作研究にはげんでおります。会社は江戸中期の創業ですが、いつも新しい信楽焼をめざして取り組んできました。

信楽焼は聖武天皇の頃からと言われていますが、その陶土は何百万年も前に古琵琶湖に堆積したものです。その資源は我々に恵みを与えてくれますが、一度焼けば陶器となり、もう陶土には戻りません。また、その排水は処理しないと濁水となって環境をよごします。その大事な資源を大切に守り、有効に利用させていただくために開発をおこなっています。

そしてその製品が使っていただく人や社会を豊かにするように願って、制作にはげんでおります。また、陶土だけが資源ではなく、古くからの伝統技術や新しい機械とそれらを利用する技術を持った職人達も貴重な資源です。



我々の会社が永く存続できたのはこれらの貴重な資源があればこそですが、それだけでなく社員はもちろん、地域の人々やOBまたお得意様の暖かい応援や理解があればこそと感謝しております。

いまは不況が長引いて非常にきびしい時代ですが、若い人が希望を持てる、また高齢者が安心していつまでも働ける、そしてその中で技術の伝承ができる、そんな会社をめざしております。株式会社丸九製陶所がいつまでも地域や社会に有用であり受け入れられるように努力致しますので、変わらぬご愛顧のほど宜しくお願い致します。



株式会社丸九製陶所
代表取締役 今井廣

2. 経営理念

三方良しの経営理念

買い手によし

お客様が満足のゆく製品・納得のできる製品を提供すること。

売り手によし

きちんとした製品づくりをし、真っ当に利益を出すこと

世間によし

環境に配慮したモノづくりと、信楽焼という産業に貢献すること

信楽に窯を構えて200有余年、壺や火鉢、植木鉢など、常に人々の生活に深くかかわるやきものを作り続けてまいりました。

三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)という近江商人の精神をモットーに、これからも、多様化する生活様式に対応できる新しい“やきもの”のあり方を研究し続けて参りたいと思っております。

今後の展望



当社では、新しい素材や新しい商品の試作なども事業として請け負っております。今後は金属や樹脂、その他天然素材など、異素材との組み合わせや、建築空間、庭園、ランドスケープにおける“やきもの”のあり方を広く追求していきたいと思っております。

規模を追求せず、足元を固めて身の丈にあった経営をしていきます。

時代時代のニーズにあった焼き物を作り続けていきます！！

3. 会社概要

会社名	株式会社丸九製陶所	
役員	代表取締役社長 今井 廣	
創業	江戸中期	
資本金	2,000万円	
生産品目	信楽焼陶器 (傘立て、フラワーベース、プランター、園芸用置物、インテリア小物、手洗い鉢、照明など)	

【所在地】

株式会社 丸九製陶所

〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野770

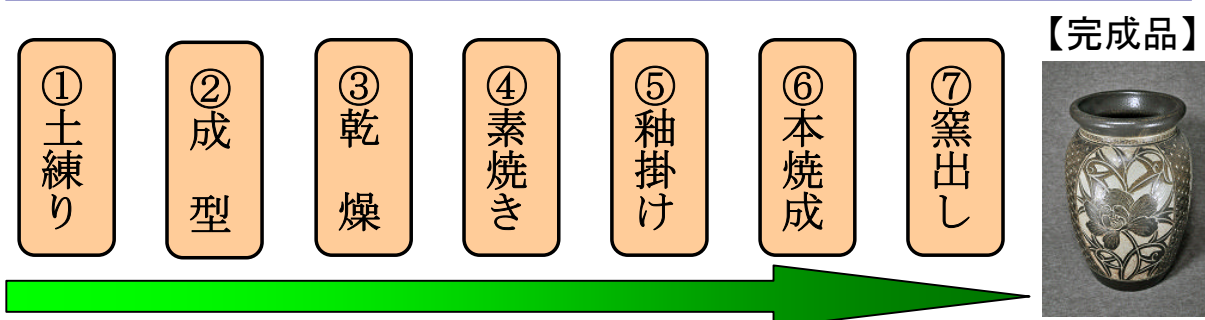
TEL : 0748-82-0059 FAX : 0748-82-3159

HP : <http://www.maruku.co.jp/>



3. 会社概要 工程①

製造工程とその特徴



①土練り

当社では、市販の一般的な土と、原料から仕入れて製品に適した調合で練っている自社オリジナルの土とを使っています。**扱う土の種類が多く、調合によって、色・肌触り・耐火性・重量等が調整できます。**

②成型

当社では、製品のサイズや品目等に合わせて、多種多様な成型方法の中から**最も適した成形方法を行っております。この引き出しの量・幅が他社とは決定的に違います。**

- ・手引きロクロ ・手びねり成形 ・タタラ成形 ・プレス形成
- ・機械ロクロ成型 ・鋳込み成型 ・筒抜き成型 など

【多種多様な成型手法】

●手引きロクロ

陶芸でもっとも有名な成形方法で、主に手を使って土の塊から成形します。

●機械ロクロ成型

回転する石膏型に入った土をコテで伸ばしていく成形方法で、この成形で基礎形を作り、装飾を施したり、変形させたりします。

●手びねり成形

紐作りともいわれる最も古い作り方で、ひも状の粘土を積み重ねていく成形方法です。

●タタラ成型

タタラと呼ばれる板状にした粘土を切り貼りして作ります。当社ではタタラ専用の製造設備が在り、職人が採寸・裁断・張り合わせを行っております。



【手引きロクロ】



【機械ロクロ成型】



【手びねり成型】



【タタラ成型】

3. 会社概要 工程②

製造工程とその特徴

③乾燥

当社では効率のために3種類の異なる乾燥部屋を持ち、**製品ごとに管理を行うことで、品質の精度を高めています。**

④素焼き

本焼成の前に一度低温度で焼成し、釉薬を掛ける前に**余分な不純物を燃やし、生地に強度を持たせています。**



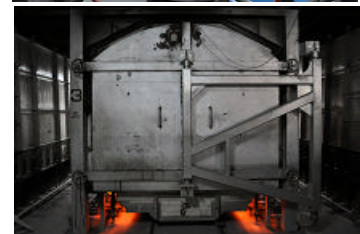
⑤釉掛け

製品の彩色のために色薬・釉薬を掛けます。自社配合のオリジナル釉薬を扱い、**特殊な色や微妙な調整を可能とします。**



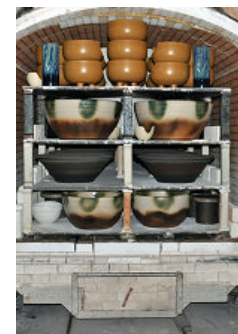
⑥本焼成

1200度以上の高温で最終焼成を行います。大型陶器の生産地として有名な信楽の中でも、**有数の大型焼成窯を保有しており、大物づくりを得意としています。**



⑦窯出し

焼きあがった製品を窯から出し、**色・形に問題がないかを確認徹底しています。**



各工程の工夫が、完成品の色あい・形状・模様の多様さ・違いに繋がっています！！

3. 会社概要 商品紹介①

商品ラインアップ

置物

室内はもちろんのこと、耐候性に優れた陶器は、エクステリアとしてご好評いただいております。



食器



花瓶・フラワーベース



手洗い鉢



水鉢



水盤



和モダンな空間を作る人気商品。

陶照明



花器



傘立



植木鉢



一口に陶器と言っても本当に多種多様です。その他にテーブルセット、茶道具、ポスト、立水栓等、ご注文に応じて色々な物を作っております。

3. 会社概要 商品紹介②

形状の種類

形状だけで見ても本当に様々です。一例として花器の場合でみても多種多様です。

花器



【壺型】



【丸壺】



【小筒】



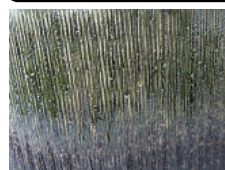
【鉢】



【手びねり】

装飾の種類

表面の装飾も色々あります。



【櫛目】



【手びねり】



【松皮】

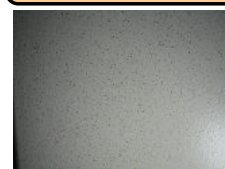


【千段】

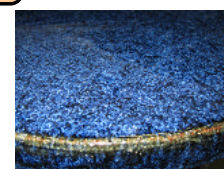


【透かし彫り】

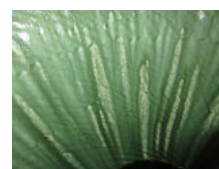
釉薬の種類



【ウズラ】



【ナマコ】



【ビードロ】



【火色】



【窯肌】

多岐にわたる種類への対応

①サイズ・寸法 ②形状 ③装飾 ④色 など

お客様の要望に対応して適合した商品を提供します。 【青ガラス】



種類が多岐にわたるだけでなく、色・形状・装飾など

組み合わせは無限と言えるほどあります！！

4. これまでの事業展開 ～企業沿革～

丸九製陶所の沿革

西暦	出来事
江戸中期	創業
1966年7月	30号浅型三つ組植木鉢 第37回信楽陶器品評会1等賞受賞
1969年5月	株式会社丸九製陶所に改組
1972年11月	明治100年に際し創業100年以上の貢献に対し感謝状を県知事より授与
2000年7月	手洗器3種第69回信楽陶器総合展優秀賞受賞
2000年10月	同上製品2000年度グッドデザイン賞受賞
2008年3月	中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の承認
2008年11月	中小企業総合展出展
2009年10月	琵琶湖環境ビジネスメッセ出展

創業期

江戸中期ごろより代々、信楽の地で家業として火鉢・便器・花瓶・壺など日常陶器製品を作っておりましたが、昭和44年、当時のエネルギー革命によりそれまでの薪を燃料とする登り窯から重油窯へと切り替えたことをきっかけに従業員数を増やし、株式会社に改組しました。また、このエネルギー革命により主要製品であった火鉢は必要とされなくなり、植木鉢をメインに扱うようになりました。

成長期

さらに生産性を求め、重油窯から現在のガス窯へと切り替えましたが、プラスチック製品の発展により主要製品であった植木鉢の売り上げが落ちてきました。

そこで、現社長が当時の住宅ブームに目を付けて傘立ての生産を始め、また生活の洋風化に合わせて和風花瓶から洋風フラワーベースへの転換を行い、現在までの主力製品となりました。

転換期

現在では、金属や樹脂、その他天然素材など、異素材との組み合わせや使用場面にあった“やきもの”のあり方を広く追求研究しており、これまでの主要製品に合わせて、手洗い鉢や照明器具など幅広く品目を増やし、お客様の声、時代に即したモノづくりを続けています。

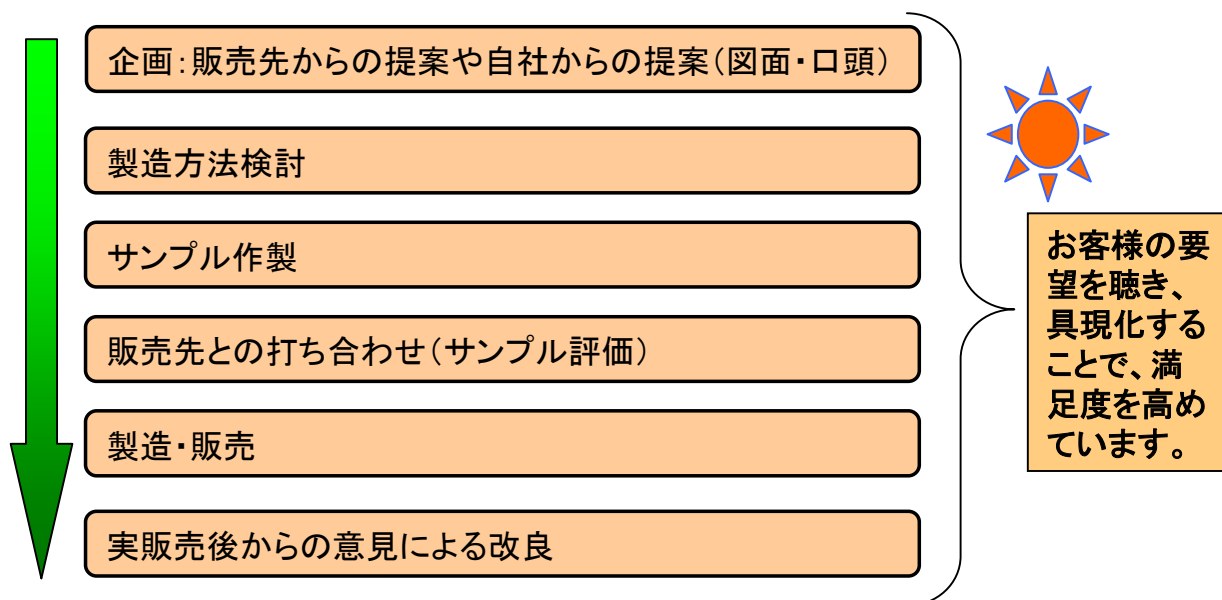
時代時代のニーズにあった焼き物を作り続けてきました！

4. これまでの事業展開 ～SWOT分析～

丸九製陶所のSWOT分析

	内部経営資源	外部環境
プラス面	<強み> ・大型陶器製品の製造が得意 ・半手作業、半機械作業による大小様々な生産への柔軟な対応 ・様々な設備、技術を保有しており、多様な製品の製造が可能 など	<機会> ・歴史、伝統産業によるブランド展開への期待 ・省エネブームによる原点回帰志向 など
マイナス面	<弱み> ・小型陶器（低価格・量産品）を得意としていない ・多様多種の製品の管理コストの増大 など	<脅威> ・安価な大量生産品 ・他素材（合成樹脂製品など）製品の進展 ・贈答・茶道・華道などの習慣の衰退 など

企画から生産、販売まで、御社からお客様に届くまでの流れ



<興味をもたれた方は、是非、一度お気軽にご連絡下さい。>

5. 当社の知的資産

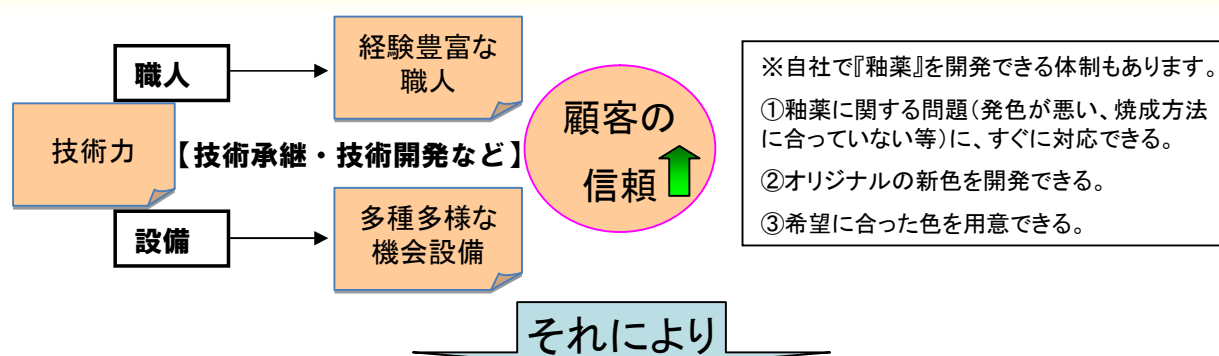
何故、時代のニーズに対応が可能なのか？

→多種多様な製造を実現する技術力を長年培ってきたから

- ①創業200年余磨き守り続けてきた伝統技術(経験豊富な職人、多様な技術)
- ②多種多様な設備(特殊な形状、色、装飾などに対応できるように常に開発)
- ③お客様の要望を聴き、環境への対応し続けてきた三方良しの精神・姿勢

すなわち

当社の知的資産は、この多種多様な製造を実現する技術力



特殊な形状・性質の製品を作る際等に製造方法の選択肢が増えることや生産コスト等において最適な製造方法が選べるなど製造、製品のバリエーションが広がります。

多種多様な設備と技術力を有していることで、他社では対応できない形状やサイズの製品を作ることができます。少数生産なら手造りで、多数生産なら型を作って対応できるなど生産ロット数に応じて製造方法を考えることにより、お客様への価値の最大化に繋がっています。

そうして、こだわりの“やきもの”を多品種創作しています！

技術力を構築するため、それぞれの製造方法ごとに対応する技術を持つ職人と、専門の機械設備を多数揃えています。また、この技術力を活かし、高めるために、技術者の技を継承していくことや新たに開発される技術を取り入れていくことにも取り組んでいます。

6. これからの事業展開

江戸中期の創業より、変わらぬものがあります！！

三方良しの経営理念により、お客様の要望に応え続けています。

買い手によし

お客様が満足のゆく製品・納得のできる製品を提供すること。

売り手によし

きちんとした製品づくりをし、真っ当に利益を出すこと

世間によし

環境に配慮したモノづくりと、信楽焼という産業に貢献すること

規模を追求せず、足元を固めて身の丈にあった経営をしていきます。

三方良しの経営理念により、お客様の要望に応え続けます。



今後の展望

当社では、新しい素材や新しい商品の試作なども事業として請け負っております。今後は金属や樹脂、その他天然素材など、異素材との組み合わせや、建築空間、庭園、ランドスケープにおける"焼きもの"のあり方を広く追求していきたいと思っております。



これからも変わらず、時代のニーズにあった焼き物を作り続けます！

お問い合わせ先

本書ご利用上の注意

本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附随する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、弊社の判断にて記載しております。

そのため、将来に亘り弊社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、弊社が将来に亘って保証するモノではないことを、十分にご了承願います。

作成支援・監修専門家

本知的資産経営報告書の作成にあたっては、本書記載内容につき、その客観性を維持・向上させる趣旨から、次に掲げる専門家のご支援・ご監修を賜りました。

中小企業診断士 加藤 秀 勲（かとう ひでのり）

登録：中小企業支援ネットワーク強化事業登録専門家

中小企業支援ネットワーク機関 滋賀県中小企業団体中央会 中嶋 和繁

お問い合わせ先

株式会社丸九製陶所

住所 〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野770

TEL:0748-82-0059 FAX:0748-82-3159

URL: <http://www.maruku.co.jp>

作成日：平成23年11月

信楽焼

陶器製造

- ・傘立
- ・植木鉢
- ・水蓮鉢
- ・花瓶
- ・花器
- ・手洗鉢
- ・インテリア
- ・エクステリア



丸丸製陶所

信楽江戸中期創業

